



平成 30 年 1 月 24 日 (水)  
2018 年 No.9 1 月号  
横浜市立 新羽 中学校  
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 [l2-nippa@edu.city.yokohama.jp](mailto:l2-nippa@edu.city.yokohama.jp)

## ● 謹んで新春のご祝詞を申し上げます ●

校長 宮本 昌季

鎌倉時代の僧侶、鴨長明が著した「方丈記」には、ご存知のように「ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」と世の無常が語られています。人の世に生きることへの詠嘆と自然の哲理が読み取れます。仏教の世界観と交わるように「生老病死」の苦から、人はいかに救済されるかを主題に抱えながら、消え入るようなニヒリズムを提示しているように感じます。世のはかなさに、無条件に身をゆだねることに甘んじざるをえなかった時代相と長明の社会的位置が起因していると思われま



一方、近現代に欧州より起こった実存主義や現象学などの哲学は、「実存は本質に先立つ」と呼びかけ、まずは生きている事実立つことを生きる原理としました。戦後のわが国にも流入した思想潮流の一つです。作家の坂口安吾の作品「墮落論」などに当時の風潮が感じ取れます。生きることは「苦」であるかもしれないが、何のために生きるか、どのように生きるかを問う以前に、既に生きている自分を注視せよという考えに立ちます。

人格の完成を目指す途上にある若い人たちが、自らの生に懐疑を抱き、立ち止まることは、極めて自然な哲学的行脚であり、人生のフィールドワークであると考えべきです。「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉を「新約聖書」から導くまでもなく、「我思う、ゆえに我あり」といった 17 世紀の哲学者デカルトの言葉を引くまでもなく、人は「思い」「考え」「悩む」からこそ、生きていることを証明できる存在です。思考の散歩は、大いに重ねるべきだと思います。時に、道に迷い、出口を見失うことがあっても、徹底的に考え抜く鍛錬は、己の生き方を決定していきます。

すなわち、年頭の提言として、中学生の皆さんに次のことを求めます。自らの生命を大切に、大いに人と語り合い、人と向き合っていくこと。人と向き合うとは、顔が向き合うということであり、心を開いているということです。健康な身体を維持し、豊かな知識に触れ、

思考力を鍛えること、これから生き抜く中学生の皆さんに必要なことです。

結びに、生徒、保護者、地域の皆様にとりまして、本年がよりよい一年となりますように心から願っています。また、新羽中学校教職員一同は、本年も生徒の皆さん一人ひとりのために、全力を尽くして取り組んでまいります。本年もぜひ、よろしくお願い申し上げます。



## ● 校長の授業見学日誌 2017 part 9 ●

～ 国語を適切に理解し表現するために ～

### 【1年3組】国語科 柏倉 しのぶ 先生

毛筆書写の学習を行っていました。本時のねらいは、「楷書と仮名を調和させて書く」と「筆脈と配列を意識して書く」です。お手本の言葉は「いろは歌」で、縦二文字二行に配列します。クラス全体は、学習のねらいをよく把握して、全員でよく取り組もうとします。時折、私語が混じりもしましたが、先生の指示を受け止めて、集中して筆を運びました。



先生は、初めに忘れ物調査を列ごとに行いました。基本姿勢をおさらいし、黒板に筆で、筆の運び方を丁寧に示します。立派な文字で書き、生徒の皆さんも見入っていました。「いろは」を書いた後、どうしても「歌」の漢字が大きくなってしまったことに、生徒の皆さんは、苦勞していました。道具の置き方や教室環境もよく整えて、学習しやすい状態を作っていました。椅子の座り方や姿勢の在り方を、ふだんの生活にも生かせるよう、これからも頑張っしてほしいと思います。

### 【2年3組】国語科 本田 理香 先生



定期試験の返却と答え合わせを行う時間でした。クラス全体は落ち着いていて、座席に座る姿勢もきちんとしています。テストを返却される時は、自然にそわそわしていますが、すぐに着席して先生の話に耳を傾ける切り替えが身に付いています。問題ごとの先生による解説をしっかりと聞いて、メモも怠りません。

漢字の書字には、「棄却」「敷く」など書きなれない文字が散見され、四字熟語を考えるとところでは、「順風満帆」

「暗中模索」など語彙力の試される設問が見られました。また、日常的によく耳にする「なので」で文が始まる述べ方について、書き言葉としては適切ではないことを指摘されていました。敬語の設問では、「母がそうおっしゃっていました。」を「申して」に直すなど、謙譲語の理解に意が注がれていました。「観点別学習状況の評価」を定期試験においてもきめ細かく行っていることが分かります。

## ● 年度末の「にっぱの日」は2月のみ ●

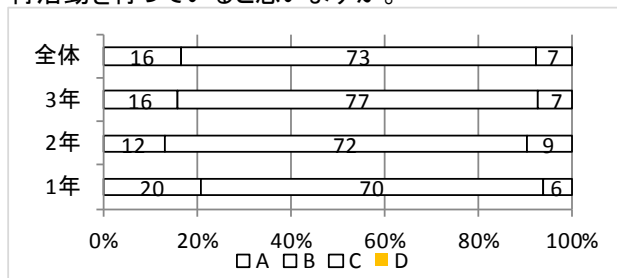
授業のある毎月28日を、新羽小学校、新羽中学校はともに授業公開を行っています。どちらの保護者も、地域の皆様も、小中学校いづれにも見学にいらしてください。今年度末残る3か月では、カレンダー上、2月28日（水）のみとなりますが、平常時の児童、生徒の様子をお誘いあわせの上、積極的にご覧になってください。学校の敷居を下げ、噂ではなく実際に目で確かめることのできる「開かれた学校づくり」を進めています。

もちろん、必要に応じて、事前連絡をいただければ、ほかの日でも同様の見学は可能です。ぜひ、「学校に行こう」を皆様の合言葉にいただければ、幸いです。

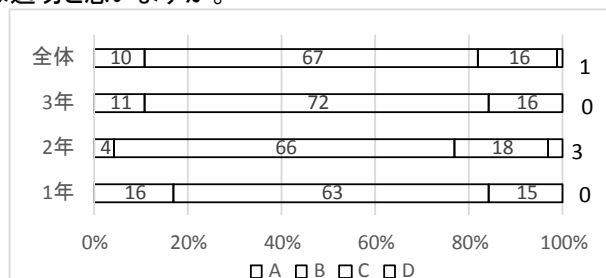
## ●平成29年度 保護者による学校評価の結果と考察●

ご協力いただきました「学校評価」のまとめをお知らせいたします。皆様の貴重なご意見を、今後の学校教育の改善と更なる信頼関係の構築に役立ててまいります。

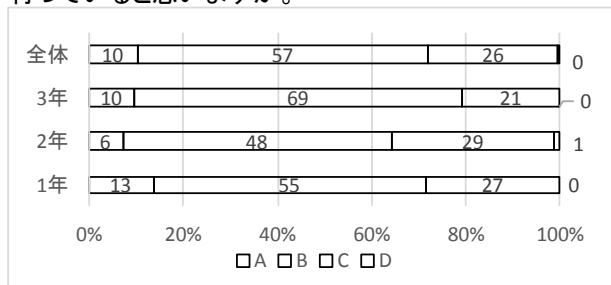
1 新羽中学校は学校教育目標を生かした教育活動を行っていると思いますか。



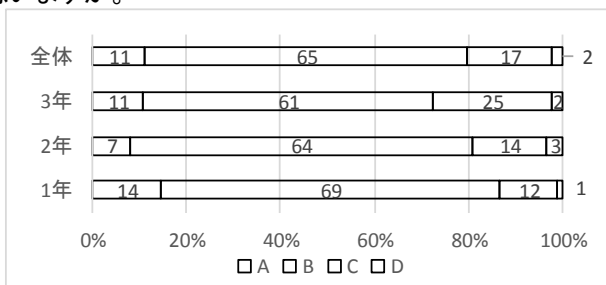
2 各教科の授業の指導内容及び指導方法は適切と思いますか。



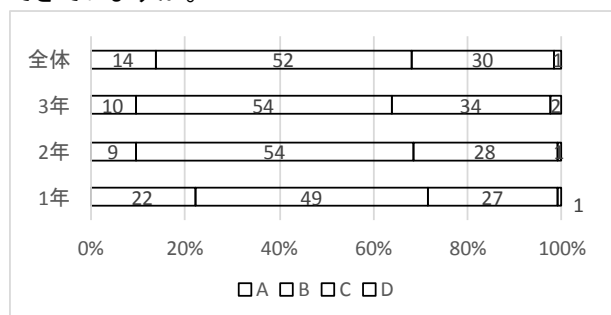
3 各教科で生徒の学習意欲を高める工夫を行っていると思いますか。



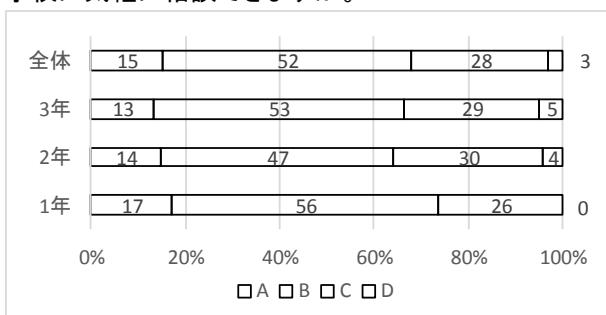
4 各教科が行っている評価・評定は適切と思いますか。



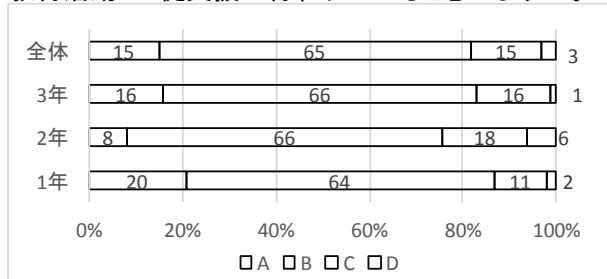
5 中学校のようすを家庭でもよく知ることができていますか。



6 何か困ったこと、わからないことがあったら学校に気軽に相談できますか。



7 総合的に判断して、新羽中学校は保護者として満足できるような教育活動・生徒支援が行われていると思いますか。



グラフのA B C Dは、「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」をそれぞれ示します。グラフの帯上の数値は%を表します。

今年度も、保護者の皆様の新羽中学校に対するお考え、ご理解の仕方等について大変参考になる情報をいただいております。

□

上記の設問の中では、5番6番についてさらに改善を図りたい指標と考え、加えて3番、4番における授業改善及び、いわゆる絶対評価の精度向上を継続課題としてとらえます。

具体的記述の個々のご意見については、次のような観点での共感、ご指摘、ご要望をいただいています。授業改善、学力向上、部活動指導、評価・評定、教職員の勤務姿勢、教室・学校環境、学校情報の発信、保護者対応、生徒理解等。さまざまに傾聴すべきお声をいただきました。また、開かれた学校づくりの取組の一つとして、毎月授業のある28日（新羽の日）を新羽小学校ともども、授業公開していますので、ぜひご活用ください。